

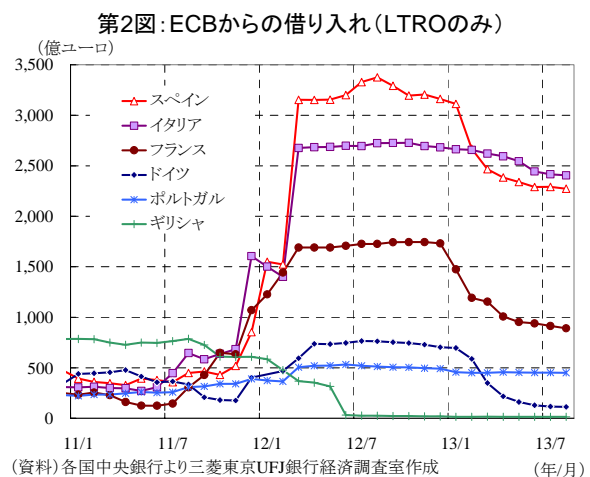
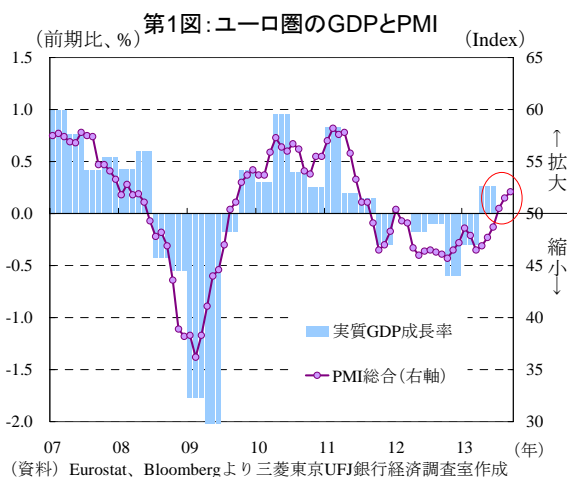
# 経済マンスリー [西欧]

## 景気は底入れも、今後も成長ペースは緩慢に

欧州経済は持ち直しつつある。ユーロ圏では実質 GDP が第 2 四半期に 7 期ぶりのプラス成長を記録した。足元の指標をみても、8 月の鉱工業生産は前月比+1.0%と、7月の落ち込みを取り戻し、小売売上高は7月以降、建設業の生産は4月以降、それぞれ前月比プラスで推移している。また、9月の購買担当者指数（PMI、総合）は52.2と3か月連続で業況の拡大・縮小の境目である50を上回っており、ユーロ圏経済は第3四半期もプラス成長を確保する公算が大きい（第1図）。ただし、失業率は依然高止まりしており、銀行貸出も低迷が続いていることから、今後も成長ペースは緩慢になると予想される。

他方、金融・資本市場は概ね落ち着きが継続している。ドイツでは9月22日に実施された総選挙において、メルケル首相率いるキリスト教民主同盟・社会同盟（CDU／CSU）が第1党を維持し、同首相の3期続投が確実視されている。ただし、CDU／CSUの議席数は過半数に満たず、メルケル首相は最大野党である社会民主党（SPD）との大連立交渉に臨んでいる。メルケル首相の周縁国支援に対する厳しい姿勢は、SPDの積極姿勢と対照的であり、内政面での主義・主張の隔たりも背景に、交渉成立にはまだ時間を要するが、SPD幹部からもCDU／CSUとの連立に前向きな姿勢が垣間見え、連立政権樹立に向けて前進しつつある。また、ギリシャやポルトガルの追加支援協議の行方や、欧州中央銀行（ECB）による銀行監督一元化に向けた銀行審査など不透明要因は残るが、今のところ金融市場に目立った緊張はない。

こうした状況下、ECBは10月の定例理事会において、利下げは検討したもの、政策金利を据え置き、フォワード・ガイダンスの継続を確認した。3年物長期資金供給オペ（LTRO）の早期返済が進むなか（第2図）、翌日物金利には上振れ圧力がかかりやすい状況にあり、ECBは貸出金利等の低位安定手段を模索している。



照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 竹島 慎吾 shingo\_takeshima@mufg.jp  
大幸 雅代 masayo\_taiko@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくご申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。